

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 ゆり棟)

事業所番号	0691400030		
法人名	さくら福祉会		
事業所名	グループホーム村山		
所在地	山形県村山市大字富並1469-9		
自己評価作成日	平成 28 年 10 月 12 日	開設年月日	平成25 年 5月 1 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様の思いやこだわりを受け止め、その方らしい生活の場が提供できるように努めています。日々の関わりの中でひとりひとりのできる力を信じ、ゆったりと落ち着いた生活を心掛けています。地域との連携もうまく出来ております。地元消防団との訓練体制・部落行事での交流など徐々に頼れる関係が築けています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	平成 28年 11月 25日	評価結果決定日	平成 29年 1月 5日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して4年目を迎え、職員は当初より積極的に地域の会合や清掃活動などに参加して、グループホームを理解して貰えるよう取り組んできたことが地域の人達に理解され、地域住民からのアプローチも増え、お祭りや避難訓練への協力に繋がっています。自然豊かな環境の中、広く明るく建物で利用者は一人ひとりのペースで個性を大事に地域の一員として暮らしています。職員は利用者・家族との信頼、地域との信頼、職員同士の信頼を大切に取り組み、それらすべての事が利用者の生活の質向上に繋がるよう頑張っている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己 外部 項目		自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「大高根の自然の中で、利用者様と共に過ごす時間を大切に、笑顔を忘れず温かみのある生活の場を提供いたします」この言葉通り自然を満喫し、笑い声が響く時間を共有しております。	理念を掲示し職員は常に行動の指針として心にとめ、利用者との信頼関係づくりを大切にしている。また認知症であっても、その時々笑顔が沢山みられるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年で4回目になる夏祭りは地元の方も多く参加され賑わいました。徳内はやしの披露会・地元消防訓練の参加は毎年の恒例行事になっています。	管理者は開設当初から地域の集まりに積極的に顔を出し、グループホーム村山をアピールし理解してもらうように努めている。地域のなかで存在が認められ、徳内ばやしの方々の訪問や消防訓練の協力などに繋がってきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事等に入居者と共に参加しています。今後は、サロンや老人会等の集まりに参加し、地域の方々へ認知症の理解を深める機会を行っていきます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の会議には民生委員、福祉部会、市担当者等15名に構成メンバーになって頂いています。現状を報告し、市担当者の意見・地元の方の質問をサービスに活かせるよう努力しています。	大高根地区「かがやきの里」地域推進協議会の福祉部会メンバーが多数出席し、また警察や地元消防団の参加もあり、それぞれの視点から貴重な意見や情報を聞くことができ運営に活かしている。また外部評価も開示し現状を知ってもらう様努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市や地域包括センターの職員とは報告や相談、情報交換に努め協力関係を築いています。また包括からの様々な依頼も多くなり良い関係になっています。	市の担当者が度々替わるが連携は途切れることなく支援してもらっている。地域包括支援センターとも良好な関係で共に地域の相談ごと等に携わり情報交換し、直接介護に関わるものとして力を発揮している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	外部研修に参加し、他職員に伝達講習しています。禁止となる具体的な行為の検討を行い、周知徹底しています。言葉使いなども職員同士で声かけをし、注意し合える関係作りを目指しています。	「身体拘束排除宣言」を掲げ、職員は外部や法人の研修に参加し認知症に対する理解を深め、利用者との信頼関係を築き拘束のない自由な暮らしが出来るよう努めている。職員同士も協力し皆で見守りリスク回避を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関する研修には、必ず参加し、委員会を中心に勉強する機会を設けています。虐待が無い様に周知徹底に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職場内・外研修で権利擁護事業の制度の理解を学んでいます。現在制度を使っている方はおりません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退所の際、重要事項説明書を用いて、十分な時間をかけて項目ごとに理解して頂けたかチェックし、不明な点が無い様に努めています。契約後も不明な点は随時説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見や苦情などは入所時にまず、説明させていただいています。苦情票で記録を残し、職員へ周知しています。些細なことでも真摯に受け止める姿勢と誠意を大切にしています。	日頃から状態の把握に努め、家族等には報告や連絡をしている。また面会時には些細な疑問や苦情を謙虚に受け止め、速やかに記録し、その後の対応に活かし、家族等からの信頼が得られる様取り組んでいる。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回職員会議やユニット会議を設け、よりよい運営にむけて随時検討しています。管理者同士のブロック会議、ブロック長会議を通し、内陸と庄内の事業所の統一化を目指しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月実績報告のほかに職員の現状の報告、事業所内での担当業務の遂行等努力しています。昇給水準も他法人に比べ高いこと、有資格者へは正職へ昇格できる試験など職員のやりがいを考慮しています。		
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	4月に年間研修計画を立て、本部へ報告しスキルアップの機会を設けています。資格取得のサポートも行っています。勤務年数に応じて必要なケアができるよう、個々の技術向上に努めています。	職員は認知症、身体拘束、食中毒、救急救命などの研修でそれぞれの力量アップを図っている。今年度2名の職員が資格取得を目指しており事業所全体でバックアップしている。また仕事の悩みなどは主任や管理者に相談し問題解決に努め、前向きに仕事に励めるようチームとして支えている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市の連絡協議会や村山市医師会主催の認知症ケア研修会などに参加し、情報交換や交流を図っています。	医師会主催の認知症ケア研修会や村山市の事業所連絡協議会で他法人と交流し、情報交換で気づきを得ることができ、サービスに反映している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には計画作成担当が面談しご本人様にお会いし心配事、趣味、要望を伺います。分からないことがあれば、ご家族・前ケアマネ等にお聞きしています。入所前にお会いすることで少しでも顔を覚えてもらえるようにしています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談時点で困り事や在宅生活が維持出来ない理由をお聞きしています。ご家族の要望にはできるだけそえるよう対応しています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の面談時、ご本人やご家族に生活歴や要望等をお聞きし、本人の望む生活に近づけるように一緒に計画を立てています。本人ができることを盛り込み、目標に向かっていけるように支援しています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様ひとりひとりの意見を尊重し、お互いを思いやれる雰囲気の中で個人のペースや生活に合わせ共同生活を行っています。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の気持ちに寄り添い、意向を聞きながらご本人とご家族の絆を大切に、良い関係を築けるようにしています。またご家族にもできることは、協力して頂いています。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の時間は貴重な時間と捉えております。希望の限り、ご家族様の都合に合わせています。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の性格を尊重しつつ、円滑な各々の出来る事、出来ない事を把握し、声かけを行い、協働で行ったりし、関わりを持っています。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も施設探しのお手伝い、その後のご様子をお聞きすることに努めています。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	対話時間を大切にしながらその中で個々の思いや暮らしの希望をお伺いしています。これまでのライフスタイルを受け止め、できるだけご本人に合った環境作りに努め、その人らしい生活を送れるように取り組んでいます。	事前アセスメントで生活歴や習慣などを把握し、入居後に不安がないよう思いを受け止めている。対話と傾聴する事に心掛け、ゆったりと穏やかに暮らせるよう、また笑顔が増えるよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで歩まれた生活歴を把握し、なじみの暮らし方やなじみの人等を理解し、途切れない支援になるように努めています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や申し送りノートを用いて、皆様の心身の状態把握に努めています。毎月のカンファレンスにおいても支援方法について話し合いながら暮らしの援助を行っております。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回モニタリングを行っています。ご本人、ご家族から要望を聞き、担当職員が記録・報告し、他職員の意見も踏まえ、現状に即した介護計画となる様に努めています。	月1回モニタリングをすることで利用者の小さな変化を見逃さず、落ち着いた生活が出来るよう目指している。また半年に1回の見直し、年1回プラン変更を行うなど担当者、計画作成者、管理者が一体となって現状を見極め、出来ることを大事にした計画作成をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録には、日常生活での会話や行動、気づき等を記録しています。この情報をもとに職員間で共有し、介護計画の見直しに生かしています。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによる歌謡、演奏を楽しむ機会を設けています。また夏祭りを開催し地元の商店に協力を依頼するなど地域の方との交流の場を設けています。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	利用者様それぞれの主治医を伺い、希望通りの医療機関で診てもらえるように支援しています。受診時にはご本人の状況がわかるようなお手紙を添える場合もあります。定期的に往診してくださる協力医とは信頼関係ができております。	入居前から継続しているかかりつけ医を受診する方が多く、可能な限り面会を兼ねて家族が付き添いをしている。状況によって往診対応の在宅医療機関を選ぶ場合もあり、利用者の状態に最も適した支援が行われている。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	利用者様の状態の変化や気づきを支援管理ノートや個人記録に記入し正確な情報が委託看護師や訪問看護師に伝え健康管理や相談・アドバイスを頂いています。			
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には管理者やユニット職員が付き添い病院側に日頃の状況提供をしています。また、担当医との面談もお願いし、退院後の受け入れ相談をしています。入院中の細かいフォローがご家族、病院との信頼関係作りに役立っていると思います。			
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期などデリケートな部分ですが、ご家族の希望をお聞きしながら状態が悪化しそうな方には早めに相談しています。医療をどこまで続けるか、ホームでできることはどこまでか、具体的に説明しながらご家族様のお気持ちの変化をくみ取りながら支援しています。	利用者の状態の変化に応じて重度化した場合の対応可能な範囲を説明し話し合いをしている。家族の不安に依る心境の変化等にも寄り添い、法人内外の他施設利用も視野に入れながら対応し得る最大のケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	合同研修会において消防署に依頼し、事故・急変時の対応を受けています。また急変に備えて救急隊への情報提供表を作成しています。内部研修では蘇生法、AED使用について学んでおります。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を計画、実施しています。夜間を想定した訓練を行い、誘導方法等を全職員が確認しています。地域の防災訓練にも参加し、災害時にはお互いに協力できるようにお願いをしています			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	アセスメントや日々の生活の中で、一人ひとりの生活歴を理解し、個人として尊重し、その人らしい生活が送れるように心掛けています。また利用者様の言葉に耳を傾け意向に沿った生活ができるよう努めております。		利用者の生活歴や能力に合わせ家事などの手伝いや園芸を教えてもらい、「ありがとう」の感謝や尊敬の気持ちを伝えている。意思表示が困難な方には選択肢を示し表情やしぐさなどを受け止め自己決定に繋いでいる。	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情や行動を常に観察し、希望に沿った支援を心掛けています。希望の表出が困難な方には、閉じられた質問の方法で自己決定できるように働きかけています			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	余暇活動等の日課は強制ではなく、利用者様の参加意欲を確認し、一人ひとりのペースに合わせ、どのように過ごしたいか、日々希望に沿って支援しています			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に床屋さんに来て頂き、散髪等していません。衣類等が汚れた場合は、一緒に洋服を選び交換していただき、清潔に努めています。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月1回のバイキング形式の食事を取り入れ、利用者様の希望を取り入れ、会話を楽しみながら食事を提供しています。			
					主菜と副菜は配食サービスを利用し主食と汁物は職員が手作りして、温かいものは温かく提供している。盛り付けなどは職員と共に行い、同じ食卓を囲み会話をしながらの食事は楽しみの一つとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成した献立表を基に提供しています。食事形態や禁止食、量等は一人ひとりの状態や能力に合わせ、また今までの習慣にも応じた支援を行っています		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛けを行い、介助が必要な利用者様には、職員が口腔ケアを行い、清潔保持に努めています。希望される方には、歯科医・歯科衛生士による口腔ケアを行っています。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレの声かけと、定時の誘導を行っています。ご本人を自尊心傷つけないように声かけ、対応を行っています。	トイレでの排泄を重視し、時間とサインを見のがさず誘導している。失敗した時には羞恥心に配慮した声掛けを行い、夜間のみおむつやポータブルトイレを利用する方もおり負担軽減に心がけている。	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況の記録を行い、時間、量等を把握し、定期的に乳製品や繊維質の多い食品等を提供し、自然排便に繋げるように支援しています。また軽体操等を行い腸の動きが良くなる様に毎日実施しています		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の順番、時間など希望に沿ってゆっくと、体調に合わせて入浴して頂けるように支援しています。体調の状態に応じてシャワー浴等にて対応しています。	週2.3回の目安で入浴し、利用者の状況に合わせて対応している。浴室内では見守りながら身体観察なども行い、普段口の重い方からも本音を聞くことができ、大事な会話の場となっている。	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温・湿度の環境を整え、日中倦怠感の強い方には居室で休んでいただくなど適時に休める無理のない生活が送れるように支援している。また睡眠状態をチェックし日中の過ごし方なども考慮した支援をしている。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当職員が薬の管理を行っており、服薬に関する事は日々の申し送りによって変更・目的・副作用について把握・確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの生活歴や得意な事を把握し、その人らしく過ごせる役割が持てる場を作りだせるように努めています。外出や行事等に参加する事で気分転換となる様に支援しています。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望にはなかなか叶えられない状態ですが、日用品を購入する際には、担当する利用者様を誘い、一緒に買い物に出掛けています。お盆・お墓参り等は、ご家族の協力を得て、外出しています。	外に出かけたがらない方もいるが、花見や芋煮会は庭先で行い外気に触れる工夫をしている。職員の買い物に同行したり家族と外出するなどの機会を設けている。	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の能力や、希望に応じて所持されています。自動販売機での購入に使っています。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話の利用をしています。ご本人では、電話をかけるのが困難な場合は、代行を行っています。また数名が携帯電話をお持ちになっております。		
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールからの眺めは自然の景色のほかプランターの植物で四季を楽しめる環境を整えています。また共用スペースについては整理整頓・清潔保持に努め、温度・湿度に配慮し心地よく過ごしていただけるよう工夫しています。	吹き抜けの天井で広く明るいホールでは過度な飾り付けをせず、落ち着いた雰囲気職員が出演している村山市オリジナル体操や会話を楽しんでいる。ホールを囲むように居室があり、見守る職員から死角がなく目が届き双方の安心となっている。	
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士の席を近くに用意しています。自由に座れるソファもあり思い思いに過ごしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物を可能な限り、取り入れ環境の変化を最小限になる様に努めています。華美な装飾はせず、居心地の良い空間づくりに努めています。	ベッドとチェストが備え付けてあり、なじみの家具なども自由に持ち込んでもらい、身体機能やこだわりを考慮し配置している。また見学者も多いため居室入り口には名前を出さないようにし、プライバシーに対応している。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「できること」「できないこと」を再度把握し、転倒等の事故予防に努めながら自立した生活を送れるように工夫しています。		